

指標の意義

・糖尿病患者の血糖値のコントロール状態を示す指標で、より高い値が望ましい。これを達成するためには食事療法や運動療法の指導と適切な薬物療法の実施が必要であり、これらを改善することによって診療の質向上を目指す。

指標の計算式、分母・分子の解釈

	各指標の計算式と分母・分子の項目名	分母・分子の解釈
分子	A) 最終検査値のHbA1cが<7.0%、B) <6.5%の患者数	近接診療所患者を含む NGSP値で集計
分母	半年間で2回以上HbA1c検査した外来患者数	実患者数。近接診療所患者を含む。
収集期間	収集期間：1～6月、7～12月（報告月：7月、1月）	
調整方法	半年に一回測定	

考察

【2015年年間数値報告】

A) 最終検査値のHbA1cが<7.0%の割合

最小値40.56 25%値58.32 中央値62.90 75%値69.91 最大値82.71

B) 最終検査値のHbA1cが<6.5%の割合

最小値22.62 25%値33.54 中央値39.51 75%値51.10 最大値72.35

回答病院60病院(2014年のデータ入力は60病院あったが、そのうち2病院は2015年データ入力がなかった。一方、新たに2病院が2015年から入力をはじめた。なお、2015年データが1～6月だけの病院が60病院中3病院あった)

【考察・分析】

分母にあたる外来患者数は、60病院全体で1～6月87660人、7～12月84362人という規模になっていました。2015年のパーセンタイル値を2014年と比較すると(箱ひげ図)、A) B)の最大値とB)の最小値が高いほかはいずれも2014年より低い数値になりました。各病院で指標数値の変化を分析し、下がっている場合にはその原因と対策を検討してください。

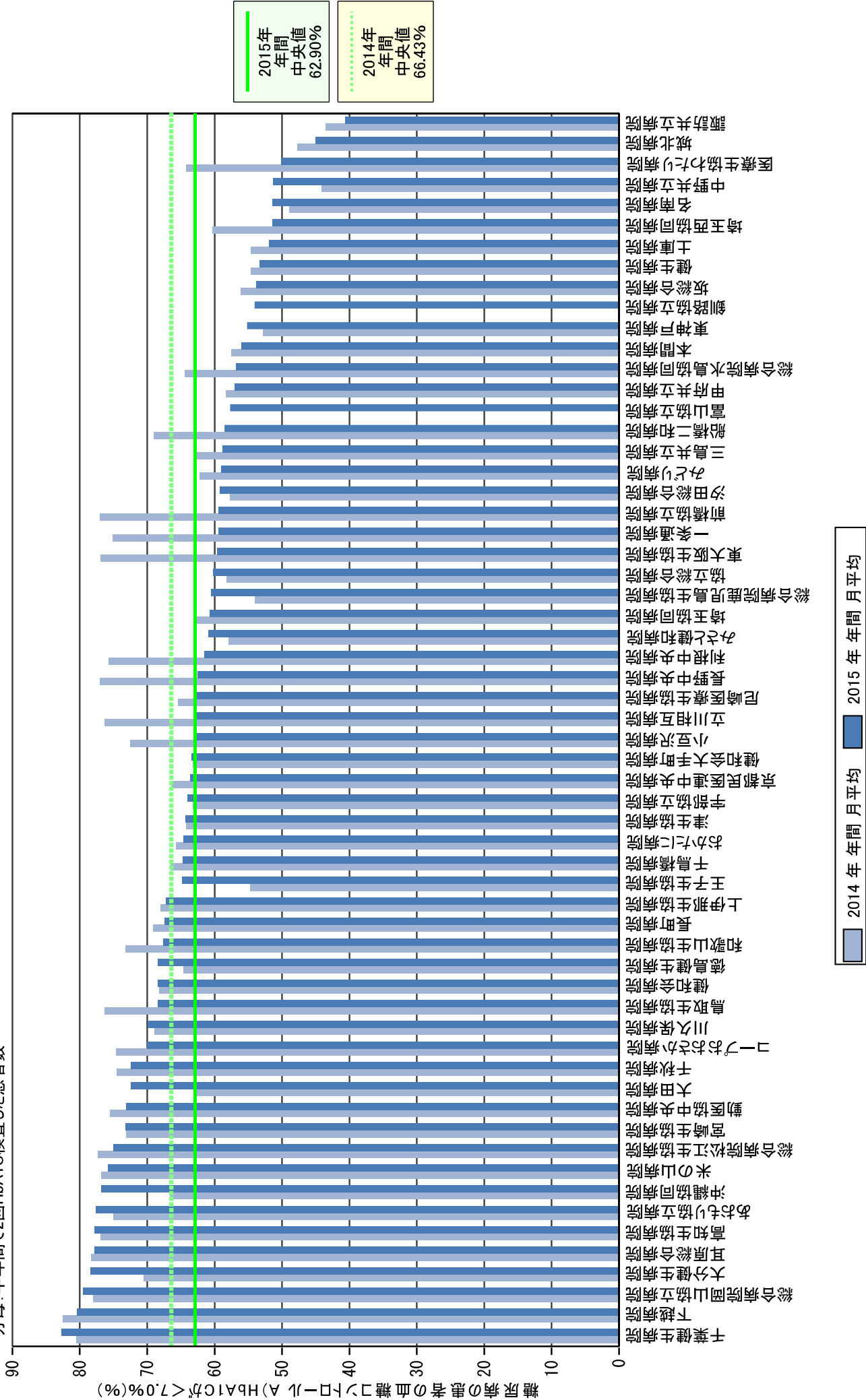
なお、定義は違いますが日本病院会の指標「No.12糖尿病患者の血糖コントロール」は、最終HbA1c<7.0%の割合が「平均値52.5%、中央値51.9%、最大値85.9%、最小値21.0%」(2014年度)と公表。また「平均値も中央値も2013年度より下がっていますので、どこに原因があるのか、掘り下げて分析する必要がある」としています。自院で指標を検討するときに参考にしましょう。

活用・改善事例

- ・各外来と病棟に委員会より発信を行っている。
- ・糖尿病グループ会議で、データを使用して検討している。

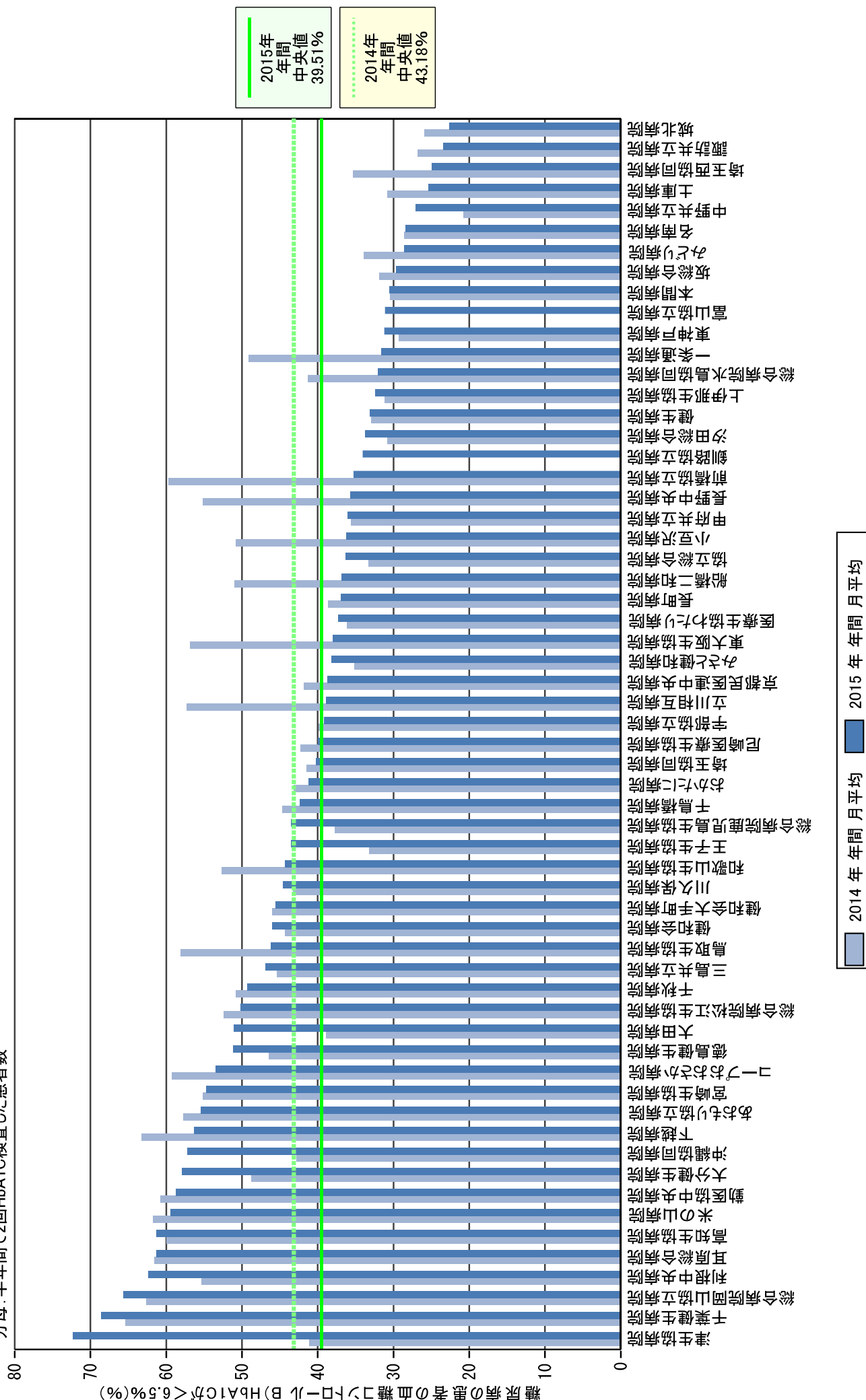
指標23： 糖尿病の患者の血糖コントロール A)HbA1Cが<7.0%

分子：最終検査値のHbA1Cが<7.0%の患者数 ※2013年は<7.5%で計測
分母：半年間で2回HbA1C検査した患者数



指標23： 糖尿病の患者の血糖コントロール B)HbA1Cが<6.5%

分子：最終検査値のHbA1Cが<6.5%の患者数 ※2013年は<6.9%で計測
分母：半年間で2回HbA1C検査した患者数



指標23： 糖尿病の患者の血糖コントロール

